

パツラマイマイ 柄眼目パツラマイマイ科
Discus pauper (Gould, 1859)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)
・(“近畿地方以西のパツラマイマイ”で掲載)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：北方系の種で、本州中部以西では分布は山岳地帯に限られ、生息地、個体数とも少ない。本県での生息はきわめて少なく局所的なので、環境の悪化で個体群が絶滅する危険がある。大山は日本における分布の西限地となる。

■**特徴**：殻高約3 mm，殻径約6.5 mmの円盤状の扁平な殻をもつ小型種で、殻表には粗い成長脈がある。殻の周辺は角張り、臍孔は広くて深い。

■**分布** 県内：若桜町^{つくよね}春米，八頭町（郡家町：明辺，落岩），倉吉市（関金町）大ナメラ山頂，大山町大山（大山寺，川床～大休）。県外：北海道，本州近畿以北。

■**保護上の留意点**：春米，大山寺では神社境内の限られた樹木にのみ生息しており，境内の清掃や手入れなどによる人為的な環境変化に注意が必要。春米では絶滅の可能性がある。

■**文献**：15, 45.

執筆：谷岡 浩

オオコウラナメクジ 柄眼目オオコウラナメクジ科
Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe, 1955

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

■**選定理由**：分布域は広いようであるが，いずれの生息地でも個体数は少ない。鳥取市の久松山がタイプ産地。

■**特徴**：体長約30 mm，体色は茶褐色で軟体には淡褐色の細かい斑紋を密につける。軟体の前部には明瞭な盾状の肉板があり，木の葉型の薄い殻が内在する。後部の背面部は尾部に向かって強い稜角が走る，頭部と触角は漆黒色で光沢がある。くわしい生態は不明。

■**分布** 県内：鳥取市の久松山（タイプ産地），岩美町鳥越，三朝町神倉，大山町（大山寺，香取）。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：分布域は広く，複数の生息地が確認されているが，いずれも個体数は少ない，生息地の自然林や社叢の保全が必要。

■**文献**：9, 49.

執筆：宇野 明・谷岡 浩

ヤマコウラナメクジ 柄眼目オオコウラナメクジ科
Nipponolimax monticola Yamaguchi & Habe, 1955

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

■**選定理由**：全国的にも記録の少ない稀少種。県内での確認は1例のみ。

■**特徴**：体長20–30 mm。軟体は青黒色，前方背面に楕状の肉板がある。採集例が非常に少ないため，くわしい生態はわかっていない。

■**分布** 県内：大山町大山。県外：兵庫県篠山町天引峠（タイプ産地），石川県（七尾，白山），徳島県。

■**保護上の留意点**：ブナ林の落葉中に生息するので，ブナ林の保護。生息データが乏しいので，今後の生息調査が必要。

■**文献**：1, 9.

執筆：宇野 明

クイロベッコウマイマイ 柄眼目ベッコウマイマイ科
Japanochlamys cerasina (Pilsbry, 1902)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



撮影：増田 修

■**選定理由**：全国的に分布しているが散発的。近畿以西では稀産。県下での確認は1例しかなく、現状は不明。

■**特徴**：殻径約8 mm前後で殻質は薄く、螺塔はきわめて低い。殻表面は半透明な栗色で光沢がある。丘陵地から山地に分布し、落ち葉や朽ち木の下に潜んでいる。

■**分布** 県内：三朝町木地山。 県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：今のところ県下での確認地点は1カ所のみであり、さらなる生息実態調査が必要である。

■**文献**：—

執筆：増田 修

カサネシタラ 柄眼目ベッコウマイマイ科
Sitalina insignis (Pilsbry & Hirase, 1904)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



2010.4.18 / 撮影：中島良典

■**選定理由**：生息密度が低く希少種。県下では4カ所で確認されたのみ。

■**特徴**：殻高約1 mm，殻径約2 mmの螺塔のやや高い薄い殻をもつ微細種。殻表は淡黄色で螺条は微細で見えにくい。体層周縁は著しく角張り、殻底はやや膨らみ臍孔は閉じている。

■**分布** 県内：若桜町（^{つくよね} 瀧見，卷米），日野町久住，南部町赤谷。 県外：本州（関東北部以南），四国，九州。

■**保護上の留意点**：今後の調査によっては新しい生息地が確認される可能性がある。生息地での自然林や社叢の保全による個体群の維持が必要。

■**文献**：2.

執筆：谷岡 浩

クチベニマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra amaliae (Kobelt, 1875)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：本県の東部に本種の分布西限があり、生息数も少ない。

■**特徴**：淡黄色の低円錐形の殻をもつ中型種、殻高20 mm，殻径35 mmで、クチベニマイマイ模様といわれる3本の黒褐色の色帯をもち殻口は紅色。関西地方に広く分布し、山陰に近づくとつれ螺塔が高くなり、鳥取市気高町睦逢が西限と思われる。かつて三朝町片柴で本種とサンインマイマイの中間的な個体が発見され、サンインマイマイへの移行が示唆されていたが、その後のDNA解析および解剖所見からサンインマイマイと本種は別系統で、相互移行は起きていないことが確認された。

■**分布** 県内：鳥取市：岩坪，上砂見，河原町小畑，気高町睦逢（分布西限），用瀬町江波。岩美町：荒金，塩谷。 県外：本州（岩手県から近畿地方まで）。

■**保護上の留意点**：生息地が限定されるので、生息地の自然林や社叢の保護が必要。

■**文献**：15, 40, 50.

執筆：谷岡 浩

アワジオトメマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科

Trishoplita awajiensis Pilsbry, 1901

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：増田 修

■**選定理由**：鳥取県は岡山県とともに、本種のほぼ西限に当たる。県下での確認例は1例しかなく、現状は不明。オトメマイマイ *T. goodwini* と形態的に類似しており、今後類縁関係を調べる必要がある。

■**特徴**：殻径10 mm前後の低平な円錐形で、殻表面は乳白色の地に、不規則に淡黄褐色斑が混じるが、濃淡は個体変異が多い。活動期は草本や低い木本の葉上で生活する。

■**分布** 県内：三朝町福本。県外：おもに伊勢湾から近畿にかけての本州、淡路島、小豆島、四国北部。

■**保護上の留意点**：分布域では普通種として扱われているが、今のところ県下での確認は1カ所のみであり、生息状況のさらなる調査が必要。

■**文献**：—

執筆：増田 修

コウダカシロマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科

Trishoplita eumenes cretacea (Gude, 1900)

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：日南町印賀が本種のタイプ産地。県下ではおもに西部に分布し、中部以東では断続的となる。東部が日本海側での東限と思われる。

■**特徴**：殻高15 mm、殻径20 mmの純白の美しい殻をもつ小型種で、黒い色帯をつける型もある。四国に生息するシロマイマイ *T. pallens* Jacobi の中国地方における代置種で、シロマイマイより螺塔が高くなる。本県には低辺部に黒色帯をもつ型が多く、これをクロオビシロマイマイ *T. e. hypozona* (タイプ産地、旧名和町御来屋) と称し、コウダカシロマイマイの亜種とされていたが現在では単なる色彩変異型とされている。県東部では寡産となり、日本海側での東限と思われる。

■**分布** 県内：西部、中部、東部。県外：本州中国地方、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自然環境の良好な山地の自然林や社叢などの樹上に生息するので、環境保全が大切。生息地の少ない東部ではとくに保護を要する。

■**文献**：15, 42, 51.

執筆：谷岡 浩

トンガリササノハガイ イシガイ目イシガイ科

Lanceolaria grayana (Lea, 1834)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：県下では1カ所で確認された。河川改修や埋め立てなどにより、生息地が消滅する可能性があるが、他の生息地の有無については調査不十分。

■**特徴**：細長い形の殻をもつ二枚貝で、殻の形がササノハガイ（琵琶湖固有種）に似るが、後方がさらに鋭く尖りナイフ型となり、成長すると殻長150 mmを超えるようになる。本種は河川や池沼の流水域の砂質泥底に生息し、タナゴ類やヒガイ類の産卵母貝となっている。

■**分布** 県内：鳥取市生山のみ。県外：近畿地方を中心とした太平洋側から瀬戸内海側、京都府、兵庫県の日本海側の一部、九州北部。

■**保護上の留意点**：1個体（写真、幼貝）のみの確認であるが、過去にも見たという情報がある。河川改修や水質汚濁の影響を受けやすいので厳重な保全が必要。

■**文献**：13, 28.

執筆：谷岡 浩

イシガイ イシガイ目イシガイ科
Unio douglasiae nipponensis Martens, 1877

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



多鯨ヶ池 2010.11.26 / 撮影：福本一彦

- 選定理由**：生息環境が悪化し、生息地に限られるため。
- 特徴**：池の緩傾斜護岸域や用水路の砂礫、砂泥底に生息。殻は長卵形で膨らむ。おもな繁殖期は初夏。1繁殖期に複数回妊卵する。殻長約3 cmで成熟する。幼生はオイカワ、ヨシノボリ属等の鰓に寄生する。底に潜り込んでいることは少ない。移動能力は高いが、乾燥に弱い。夏から秋にかけて急激に成長するが、冬季は成長量が少ない。
- 分布** 県内：多鯨ヶ池、湖山池、鳥取市摩尼川、野坂川の各水系、鳥取市桂見。 県外：近江盆地を除く日本全国。
- 保護上の留意点**：圃場整備や河川改修等による生息環境の悪化防止、安定した流量の確保、定期的な泥上げによる底質環境の維持、オオクチバス、ブルーギルを駆除し、幼生の宿主であるヨシノボリ属等の生息環境を維持する必要がある。
- 文献**：8, 16, 18, 22, 22, 26.

執筆者：福本一彦・谷岡 浩

ニセマツカサガイ イシガイ目イシガイ科
Inversiunio yanagawensis (Kondo, 1982)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市福井川 2010.3.20 採集標本 / 撮影：福本一彦

- 選定理由**：生息地が限定され、個体数も少ないため。
- 特徴**：マツカサガイとは①後縁が丸く少し湾曲する、②殻頂付近に顆粒状の模様がある、③後背縁の放射肋が不明瞭かつ間隔が狭い点で区別できる。底質が砂礫で流速の速い農業用水路や二級河川に生息する。おもな繁殖期は秋。幼生はヨシノボリ属、オイカワ、カマツカの鰓に寄生する。寄生期間は水温25℃で約11日、21℃で約15日。
- 分布** 県内：岩美町本庄、鳥取市和奈見、同市福井川、同市河田川、同市勝見川、北栄町日和川。 県外：滋賀県以西の本州、日本海側は本県以西、四国、九州。
- 保護上の留意点**：圃場整備や河川改修、護岸工事等による生息環境悪化の防止、安定した流量の確保、定期的な泥上げによる底質環境の維持、幼生の宿主であるヨシノボリ属等の生息環境の維持が必要。また、本種はヤリタナゴの産卵母貝として利用されている可能性がある。
- 文献**：16, 17, 18, 52.

執筆者：福本一彦・谷岡 浩

マツカサガイ イシガイ目イシガイ科
Pronodularia japonensis (Lea, 1859)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



北栄町用水路 2010.12.7 / 撮影：福本一彦

- 選定理由**：①2010年11月現在、生息が確認されているのは県内3水系のみである、②夏場の水量不足や圃場整備による生息環境の悪化が著しいため。
- 特徴**：殻表の逆V字状の彫刻、後背縁の放射肋が顕著。ため池を水源とし、底質が砂礫で流速の速い農業用水路に生息する。雌雄異体で卵生。繁殖期は夏。雌の入水管から取り込まれた精子と卵が受精し、幼生となった後、水中に放出される。幼生はおもに日中に流下し、ヨシノボリ属、ドジョウ等の鰓や鱗に寄生する。1-2週間後に稚貝に変態し魚体から離れ、底生生活に移行する。
- 分布** 県内：北栄町、鳥取市玉津、岩美町本庄の農業用水路。 県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：年間を通じた安定した流量の確保、定期的な泥上げ、下流域へ押し流され移動阻害された個体の上流域への移動、幼生の好適宿主であるトウヨシノボリ等の生息環境の維持が必要。
- 文献**：7, 12, 18.

執筆者：福本一彦

カラスガイ イシガイ目イシガイ科

Cristaria plicata (Leach, 1815)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：生息地が限定され、個体数も少ないため。

■**特徴**：殻は楕円形で平たく、殻長は20 cmを超える大型の二枚貝。殻頂の両側背縁に翼状突起があり、とくに幼貝では後背縁の翼状突起が発達するが、成貝では目立たなくなり、付け根にしわ状の褶曲がある。池の軟泥域に生息。繁殖期は晩秋から早春。幼生の宿主はヨシノボリ属で、鰓や鰓に寄生する。

■**分布** 県内：多鯰ヶ池、湖山池。県外：北海道南部，本州。

■**保護上の留意点**：湖山池では夏期の水質および底質環境の悪化が懸念される。多鯰ヶ池では外来魚が優占しており、ヨシノボリ属の減少による本種の繁殖成功率の低下が懸念される。継続的な外来魚駆除および安定した水質、底質環境の維持が必要。

■**特記事項**：鳥取県特定希少野生動植物。

■**文献**：20, 26, 38.

執筆：福本一彦・谷岡 浩

ヌマガイ イシガイ目イシガイ科

Anodonta lauta Martens, 1877

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



多鯰ヶ池 2010.11.26 / 撮影：福本一彦

■**選定理由**：生息地が限られるため。

■**特徴**：池や用水路の流れの緩やかな泥域、砂泥域に生息する。殻は卵形で膨らみが強い。擬主歯も後側歯もない。春-初夏にかけて妊卵し、幼生は夏までに放出される。雌は1繁殖期に1回しか妊卵しない。タガイ *A. japonica* とは、繁殖期や幼生の形態、アイソザイム分析により識別可能。殻長約5 cmで成熟する。幼生はヨシノボリ属やオイカワ等の鰓や鰓に寄生する。

■**分布** 県内：多鯰ヶ池、湖山池、鳥取市水道谷川、洞ノ川の各水系、鳥取市上町、本高、古郡家の堤や用水路など。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：圃場整備や河川改修等による生息環境の悪化防止、定期的な泥上げ、池干しによる底質環境の維持、オオクチバス、ブルーギルの侵入防止および駆除、ヨシノボリ属等幼生宿主の生息環境の維持が必要。

■**文献**：6, 8, 19, 23, 43.

執筆：福本一彦・谷岡 浩

タガイ イシガイ目イシガイ科

Anodonta japonica Clessin, 1874

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



■**選定理由**：生息地の縮小ならびに個体数の減少による。

■**特徴**：池や用水路の流れの緩やかな泥域、砂泥域に生息する。殻は長卵形で膨らみが弱い。妊卵期および幼生放出期はほぼ1年中で、雌は1繁殖期に多回妊卵する。ただし、本種にもヌマガイのように膨らみが強い個体がみられるため、両種の区別は繁殖状況などを調べ、秋から冬に妊卵している個体は本種と識別できる。殻長約5 cmで成熟する。幼生はヨシノボリ属やオイカワ等の鰓や鰓に寄生する。かつて本種が生息していた米子市八幡の水路において、2010年11月の調査では生貝はまったく確認されなかった。

■**分布** 県内：岩美町本庄の用水路など。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：定期的な泥上げや池干しによる底質環境の維持、ヨシノボリ属等の生息環境の維持、安定した水量や水質の確保、圃場整備や河川改修による生息環境の悪化防止。

■**文献**：5, 6, 19, 23, 43.

執筆：福本一彦・谷岡 浩

フネドブガイ イシガイ目イシガイ科
Anemina arcaeformis (Heude, 1877)

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)
環境省：—



岩美町本庄 2003.10.29 谷岡 浩採集標本/撮影：福本一彦

■**選定理由**：2010年11月現在，生息地は1水系のみであり，生息環境の悪化が認められるため。

■**特徴**：用水路や池の泥域，砂泥域に生息する。殻は薄く，楕円形で膨らむ。殻頂が背縁中央に位置する。背縁と腹縁はほぼ平行。殻長約5cmで成熟する。繁殖期は秋～初春。幼生は冬～春に放出される。1繁殖期に1回しか妊卵しない。幼生はヨシノボリ属の鰓や鰭に寄生する。1994年3月に岩美町内で採集された個体はアイソザイム分析により本種と同定されている。

■**分布** 県内：岩美町本庄の用水路。 県外：北海道，本州，四国，中国，ロシア沿海洲，朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：生息地においては定期的な泥上げによる底質環境の維持，宿主となるヨシノボリ属の生息環境維持，安定した水量や水質の確保が必要。

■**文献**：20.

執筆：福本一彦・谷岡 浩

ヤマトシジミ マルスダレガイ目シジミ科
Corbicula japonica Prime, 1864

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



東郷池 2010.11.16 採集標本/撮影：福本一彦

■**選定理由**：本種が再生産可能な生息場所が限られるため。

■**特徴**：汽水域に生息。生息密度は溶存酸素量が高く，シルトや全硫化物量が少ない水深の浅い地点で高い。入水管から水ごと吸い込み，珪藻や有機物を鰓で濾して摂餌する。雌雄異体で卵生。産卵期は7-9月。体外に放卵，放精し，水中で受精するが，卵は浸透圧の関係により真水でも海水でも受精できない。産卵～浮遊幼生期には5psu程度の塩分が必要。浮遊幼生から稚貝に変態して砂礫に着底し，底生生活に移行する。成貝は水温が低下する冬期は深く潜砂し成長がほぼ停滞するが，春以降は底表面に移動し成長量も増す。

■**分布** 県内：東郷池，橋津川，河内川，千代川，(湖山池：東郷池からの移植個体を含む)。 県外：北海道から九州；朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：産卵～浮遊幼生期に好適塩分環境を維持することが重要。また，夏場の貧酸素対策や生息域保全策として浅場造成や覆砂が必要。

■**文献**：27, 29, 39, 53, 54.

執筆：福本一彦・谷岡 浩

マシジミ マルスダレガイ目シジミ科
Corbicula leana Prime, 1864

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市水道谷川 2009.5.8 谷岡 浩採集標本/撮影：福本一彦

■**選定理由**：台湾シジミの生息域拡大に伴う生息地縮小のため。

■**特徴**：用水路の砂礫底に生息。雌雄同体で卵胎生。自家受精するが，第一減数分裂で卵染色体はすべて極体として放出され，精子核由来の染色体のみで発生が進む。幼生は鰓管内で保育され，放出される。繁殖期は春～秋。殻長約11mmで成熟。マシジミ，台湾シジミ(黄色型，緑色型)のmtDNA分析では2系統が確認され，両種共通のハプロタイプが認められている。両種の形態とmtDNAの系統との間に対応がみられず，遺伝的に識別不可能なことから，両種を含む雌雄同体シジミについては分類学的再検討が必要とされている。

■**分布** 県内：鳥取市水道谷川，同市摩尼川，同市水谷川の各水系，米子市淀江町(形態的に本種と同定された個体が生息していた地点)など。 県外：東北から九州。

■**保護上の留意点**：台湾シジミが県下6水系7地点で確認されている。これ以上の分布域拡大防止のため，シジミ類の移植放流や投棄は慎むべき。

■**文献**：4, 10, 28, 37, 55.

執筆：福本一彦・谷岡 浩

マメシジミ マルスダレガイ目マメシジミ科
Pisidium (Pisidium) japonicum Pilsbry & Hirase, 1908

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山産鳥取県立博物館所蔵標本
 大山 1963.7.29 生駒採集/撮影：川上 靖

■**選定理由**：県内では大山の9合目の梵天池と江府町鏡ヶ成の小川の冷水域でのみ確認されていて絶滅が心配される。

■**特徴**：殻長約5 mmの灰白色の薄い殻をもつシジミ型の小型の二枚貝で、殻幅は膨らみ、微細な成長脈がある。20種ほど知られているが分類は確立されていない。梵天池の貝は東正雄氏により、ニッコウマメシジミ *P. (Eupisidium) cinereum* Mori, 1938とされた。この池は1960年代に消滅したと思われたが、1975年6月境港市の中島良典氏により、梵天池と思われる池で3個体が確認されたがその後の消息は不明。鏡ヶ成では1980年に南部久男氏が標高930 mの小川で採集された1個の標本が富山市科学文化センターに保管されている。

■**県内**：大山（9合目梵天池）。**県外**：本州。

■**保護上の留意点**：大山の9合目の梵天池の存続状況と本種の生息調査、鏡ヶ成の生息地の現状調査が急務である。

■**文献**：3. 28.

執筆者：谷岡 浩

ウエジマメシジミ マルスダレガイ目マメシジミ科
Pisidium (Odhneripisidium) uejii Mori, 1938

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：宇野 明

■**選定理由**：調査が進めばさらに確認されると思われるが、県内の既知産地は、局所的で5カ所のみ。

■**特徴**：殻高約1.5 mm、殻幅1.8 mm。殻は横に長い卵円形から丸みのある三角形で、非常に微小なため、植物の種子か砂粒のように見える。殻は乳白色から黄白色であるが、通常、殻表には泥がついてる。また殻表には明瞭で規則的な成長輪肋がある。卵胎生で稚貝を保有し産卵する。

■**県内**：鳥取市（国府町）雨滝、（青谷町）楠根；八頭町（八東町）；岩美町大谷；倉吉市葵町。**県外**：兵庫県北部。

■**保護上の留意点**：生息によっては珍しい個体数を見ることもあるが、本種は閉鎖された環境に生息していることが多く、生息地の底質や水質の悪化、水量の減少など環境の変化により個体群そのものが消滅する危険がある。

■**文献**：—

執筆者：宇野 明

■参考文献 陸産・淡水産貝類

- 〈書籍略称〉
鳥取県のすぐれた自然（動物）＝江原昭三・鶴崎展巨（編）
（1993）鳥取県のすぐれた自然（動物編）鳥取県衛生環境部
自然保護課発行（鳥取市）327 pp.
レッドデータブックとつとり（動物）＝鳥取県自然環境調査研
究会 動物調査部会（編）（2002）レッドデータブックとつ
とり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物。動物編。鳥取
県生活環境部環境政策課，214 pp.
1. 阿部近一（1981）徳島県陸産および淡水産貝類誌. 88 pp.+10 photo. pls.+10 pls. 教育出版センター（徳島）.
 2. 東 正雄（1982）原色日本陸産貝類図鑑. 保育社（大阪），333 pp.
 3. 東 正雄（2001）伯耆大山生物誌. 甲陽学院生物部 OB会東生物研究所，642 pp.
 4. 藤原次男（1977）マシジミの稚貝の成長について. *Venus*, 36: 19-24.
 5. Fukuhara S. & Nagata, Y. (1988) Frequency of the incubation of *Anodonta woodiana* in small pond. *Venus*, 47: 271-277.
 6. 福原修一・田部雅昭・近藤高貴・河村章人（1994）淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的2型の繁殖期. *Venus*, 53: 37-42.
 7. 福本一彦（2008）鳥取県中部地区の農業用水路におけるマツカサガイの生息環境およびグロキディウム幼生の寄生実態. *山陰自然史研究*, 4: 12-16.
 8. 福本一彦・三上裕加・檜垣英司（2010）鳥取県多鯰ヶ池における魚類相. *山陰自然史研究*, 5: 15-21.
 9. 肥後俊一・後藤芳央（1993）日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局, 22+ 693+13+148 pp.
 10. 池末 弥・山根伸一（1977）マシジミの生態に関する研究Ⅲ. 周年性産卵と生殖巣内自家受精について. *日本水産学会誌*, 43 (10): 1139-1146.
 11. 生駒義博・池沢知一・谷岡 浩（1962）鳥取県産貝類（2）. *郷土と科学*, 7 (2): 14-17.
 12. 伊藤寿茂・丸山 隆（2004）マツカサガイのグロキディウム幼生の流下生態. *日本生態学会誌*, 54: 85-94.
 13. 紀平 肇・松田征也（1990）琵琶湖淀川淡水貝類. たたら書房（米子市），131 pp.
 14. 紀平 肇・松田征也・内山りゅう（2003）日本産淡水貝類図鑑1. 琵琶湖・淀川産の淡水貝類. 株式会社ピーシーズ（東京），160 pp.
 15. 清末忠人・谷岡 浩・石坂 元・中島良典（1976）鳥取県の陸産貝類. 鳥取県立博物館研究報告, 13: 1-34.
 16. Kondo, T. (1982) Taxonomic revision of *Inversidens* (Bivalvia: Unionidae). *Venus*, 41: 181-198.
 17. 近藤高貴（2002）日本産イシガイ類図鑑. 大阪教育大学. <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kondo/unio/unio.html>
 18. 近藤高貴（2008）イシガイ. pp. 19-20. +ニセマツカサガイ. pp. 25-26.+マツカサガイ. pp. 30-32. In: 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会（東京）69 pp.
 19. 近藤高貴（2008）タガイ～ヌマガイ. pp. 37-39. In: 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会（東京）69 pp.
 20. 近藤高貴（2008）フネドブガイ. pp 42-43. + カラスガイ. pp. 44-45. In: 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会（東京）69 pp.
 21. 近藤高貴（2008）In: 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会（東京）69 pp.
 22. 近藤高貴・加納正子（1993）イシガイ類（淡水産二枚貝）6種の移動行動. *陸水生物学報*, 8: 1-4.
 23. 近藤高貴・田部雅昭・福原修一（2006）ドブガイに見られる遺伝的2型のグロキディウム幼生の形態. *Venus*, 65: 241-245.
 24. 黒田徳米（1963）日本非海産貝類目録. 日本貝類学会, 71 pp.
 25. 増田 修（1993）兵庫県産陸水生貝類1. *兵庫陸水生生物*, 43: 17-23.
 26. 増田 修（2002）カラスガイ～イシガイ. pp. 184-186. In: レッドデータブックとつとり（動物）.
 27. 増田 修（2002）ヤマトシジミ. p. 186. In: レッドデータブックとつとり（動物）.
 28. 増田 修・内山りゅう（2004）日本産淡水貝類図鑑2. 汽水域を含む全国の淡水貝類. 株式会社ピーシーズ（東京），240 pp.
 29. 丸 邦義・山崎 真・中井純子（2005）ヤマトシジミの産卵好適塩分. *水産増殖*, 53: 251-255.
 30. 湊 宏（1974）オキギセルとモリヤギセル. *山口の自然*, 4: 8-11.
 31. 湊 宏（1980）日本産陸棲貝類の分布資料2. オオギセル. *南紀生物*, 22 (1): 49-54.
 32. 湊 宏（1983）コベソマイマイとその近縁種について. *南紀生物*, 25: 28-33.
 33. 湊 宏（1987）鳥取県で採集されたクビレイトウムシオイガイ（新亜種）. *Venus*, 46: 75-78.
 34. 湊 宏（1994）日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus, Suppl.*, 2: 212 pp + 6 tables + 74 pls. 日本貝類学会.
 35. 湊 宏（2005）クビレイトウムシオイガイ. p. 59. In: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（陸・淡水産貝類）. 自然環境研究センター（東京）.
 36. Minato, H. & Yano, S. (2000) *Chamalycaeus* (*Sigmacharax*) *nakashimai ditacaesus* n. subsp. (Alycaeidae) from the eastern region of Tottori Pref., western Japan. *Venus*, 59: 129-133.
 37. 宮崎一老（1936）シジミの発生に就いて. *日本水産学会誌*, 5: 249-254.
 38. 長田芳和・藤川 博・福原修一（1981）鳥取県多鯰ヶ池で採集されたアカヒレタビラについて. *日本生物地理学会報*, 36: 48-53.
 39. 中村幹雄（2000）ヤマトシジミの生態学的特性. pp. 1-17. In: 中村幹雄（編）日本のシジミ漁業 その現状と問題点. たたら書房（米子），266 pp.
 40. 西 浩孝・曾田貞滋（2005）ミトコンドリアDNA分析に基づく中国地方のマイマイ属の系統地理学的研究. *ホシザキグリーン財団研究報告*, 8: 185-196.
 41. 西脇三郎（1996）イシマキガイ. p. 7. In: 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（111）1, 軟体動物. 日本水産資源保護協会.
 42. 仙波千波・横川浩治・多田 昭・家山博史（2007）

- 四国に分布するシロマイマイ種群4種の殻形態分析. 日本生物地理学会会報, 62: 89-100.
43. 田部雅昭・福原修一・長田芳和 (1994) 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的2型. *Venus*, 53: 29-35.
 44. 谷岡 浩 (1993) アズキガイ. pp. 226-227. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 45. 谷岡 浩 (1993) エチゴキセルガイモドキ. pp. 228-229. + パツラマイマイ. p. 230. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 46. 谷岡 浩 (1993) サンインコベソマイマイ. pp. 232-233. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 47. 谷岡 浩 (1993) コウロマイマイ. pp. 236-237. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 48. 谷岡 浩 (1993) パツラマイマイ. p. 230. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 49. 谷岡 浩 (1993) オオコウラナメクジ. p. 231. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 50. 谷岡 浩 (1993) クチベニマイマイ・サンインマイマイ. pp. 242-243. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 51. 谷岡 浩 (1993) コウダカシロマイマイ. pp. 234-235. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 52. 谷岡 浩 (2002) ニセマツカサガイ. p. 185. In: レッドデータブックとっとり (動物).
 53. 鳥取県栽培漁業センター (2009) 湖山池漁場環境回復試験. 平成20年度鳥取県栽培漁業センター成果報告集, pp. 10-12.
 54. 鳥取県栽培漁業センター (2009) 魚の棲む豊かな湖沼河川再生調査. 平成20年度鳥取県栽培漁業センター成果報告集, pp. 20-23.
 55. 山田充哉・石橋 亮・河村功一・古丸 明 (2010) ミトコンドリア DNA のチトクローム *b* 塩基配列および形態から見た日本に分布するマシジミ, タイワンシジミの類縁関係. 日本水産学会誌, 76: 926-932.